

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400992		
法人名	有限会社アット		
事業所名	アットホームあいり		
所在地	愛知県名古屋市区西玉池町255番		
自己評価作成日	平成29年12月15日	評価結果市町村受理日	平成30年 4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JizyosyoCd=2370400992-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年 1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様にとって安心して過ごせる家となるよう家庭的な環境を整えております。また、ご家族様とも、共に利用者様を支える関係性を築き利用者様中心のケアに努めております。地域との関わりとして、いどばた会や歌声喫茶を開催し、ご利用者様にも参加して頂くことで地域の一人として生活して頂いております。食事は個人の嗜好に合わせてるように努めており、可能な限り好きなものを召し上がって頂いております。散歩や買い物も毎日のように出かけており、趣味に応じて図書館へ出かけた後、外食なども企画して外出できる機会を作っております。人と人との関わりを大切に、専門職の視点と対等な関係性の構築に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎月開催している「いどばた会」と「うたごえ喫茶」は、毎回、20名を超える参加者があり、地域の行事として定着して来ている。利用者とともに町内清掃に参加したり職員がソフトボール大会に参加するなどの地域と交流を図るための取り組みにより、事業所の認知度も高くなっている。
職員は、通常業務とは異なるチームで企画を練り、毎月勉強会を開催し、知識の向上を図っている。理念の「人間は人間らしく」は、職員に深く浸透しており、利用者の思いに寄り添えるような支援を行っている。また、家族意見を真摯に受け止め改善する姿勢は、今後も事業所を良い方向へ導いて行く指針となるだろう。常に問題意識を持ち、目標を決め、自ら評価を行い、粘り強く前向きに取り組んでいる意識の高い事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一員であることを意識し、近所の方への挨拶や夏祭りなどのイベントに参加させて頂いている。	「男性は男性らしく、女性は女性らしく、人間は人間らしく」の理念に基づいた支援についての勉強会を行い、職員会議などで意見交換を行っている。利用者一人一人の思いを大切に、支援につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	いどばた会や歌声喫茶を通じて地域の方との交流を図っている。散歩や買い物も日常的に出掛け、挨拶や関わりを持つことで交流を図っている。	毎月開催されている、「いどばた会」と、「うた声喫茶」は、近隣住民が多く参加し、地域に定着してきている。利用者と共に、町内清掃への参加や職員がソフトボール大会に参加し、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いどばた会や歌声喫茶を通じて、地域の方へ発信したり、利用者の方と関わって頂く機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームでの状況を報告し、民生委員の方や消防団の方から情報を頂いている。また、ご家族様代表の意見を頂き、現場にも反映させている。	2か月に一度開催され、事業所報告や検討課題の提示、地域の情報交換などが行われている。利用者の家族から、職員の言葉遣いに対する指摘を受け、改善に取り組めた。地域の認知症対策について、今後のあり方なども話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	名古屋市との関わりは薄いですが、運営推進会議にて、いきいき支援センターの方と情報交換をし、また、コンソーシアムにもご参加して頂くこともあり、関係性作りを努めている。	地域の介護事業所が集う会合に地域包括支援センター職員や保健所職員が参加している。運営推進会議にも、行政職員が出席して、情報交換や協力関係作りを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については勉強会などでも学び、玄関の施錠についても防犯目的以外の施錠はしていない。言葉による拘束についても意識して取り組まれている。	玄関の施錠は、警察署から防犯の観点で勧められているが、カメラを設置することで防犯上の抑止力とし施錠しない状態を確保している。言葉による制限についても、事業所の取り組みとして、改善に向けて職員会議で話し合われて実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて学ぶ機会を作り、日々の中でも言葉遣いに留意し、毎月の全体ミーティングにて振り返りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて外部の講師を招き学ぶ機会を設けたが、勤務の都合上、全員参加はできず、制度についてはホーム内でも特に学ぶ機会がないため、必要に応じて取り入れていく。権利擁護については意識して取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に出来ること出来ないことなどを話し、日々の中でも親戚のような関係性をコンセプトに協力関係を築いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回開催される家族会や運営推進会議などで事業報告と意見交換をしている。そこで出た意見を集約し、現場に落とし込み反映させている。	年2回の家族会や、面会時、運営推進会議への出席の際に、意見や要望を聞き取り、反映させている。医療的な支援を希望する要望が出され、訪問看護を利用して対応出来ないか等の話し合いを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者による個人面談と月に一度の全体ミーティングにて意見を出している。また、スタッフノートも活用し意見交換をしている。スタッフミーティングも開催しており、現場のみでの話し合いも行われている。	管理者との面談やスタッフノートを使い、意見や要望を伝える機会がある。職員の意見で、食材の買い出し日を減らすことで、利用者の外出日を増やしている。職員が業務とは異なるメンバーで勉強会などの企画が出来る機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	欠員の補充がすぐに出来ていないことがあるが、勤務状況の把握に努め、目標管理や日々の業務態度からの評価も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は取り組まれてるが、外部の研修は個々の時間を使って行く職員しか行っていない。能力や経験に応じて外部の研修に行く機会を設ける必要がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度のコンソーシアムにて他施設の方と交流する機会が設けられている。意見交換や情報発信もでき、刺激を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に生活シートを活用し、情報を事前に入れつつ、日々の中で積極的に働きかけ、関係性の構築に努めている。安心して暮らせるように配慮しいた関わりを意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時からご家族様のニーズの把握にも努め、入居される利用者様のみならず、ご家族様の不安や希望を取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	環境が変わることでの精神的ストレスや認知症状の悪化に留意しつつ、心身に配慮した、その人を中心とした視点で一緒に考えられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支える側と支えられる側とせず、互いに必要とされる存在であり、人と人との関わりを意識して取り組んでいる。馴れ合いになってしまわないよう専門職としての意識も留意して取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員とご家族様は、親戚のような関係性の位置でご利用者様を支えている。職員が感情移入し過ぎて、ご家族様との関係性が逆転しないよう注意が必要である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に自宅が近い方は馴染みのスーパーなどに出かけられるが、地区が違う方は馴染みの場所へは行けていない。人に関しては来訪しやすいような環境作りに努めている。	馴染みのあるスーパーに買い物に出かけたり、古くからの友人が、ボランティアの演奏に来ている。図書館に通う事を習慣にしていた利用者にも、楽しみが継続出来るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の際などに同じテーブルに座られる方などは比較的に関係性が構築されている。症状や年齢、育った環境によって関わり方が難しいこともあるが、無理強いせず、職員も間に入り、孤立しないような環境は作らないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もプライバシーポリシーに反しない限り、必要に応じて対応させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアを大切に、今に何を求めているのかの把握に努めている。訴えが無い方のニーズを導き出すのが難しいが、ご家族様や過去を知る職員から情報を得て、本人本位のケアに結びつけている。	日々の生活の中での会話から、思いを汲み取るように努めている。個別の買い物や、趣味に関して、どのような支援が出来るかを考え実践している。言葉で伝えられない場合は、しぐさや表情から思いを把握して支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様から得られる情報が少ないため、入居時や日々の関わりの中からヒントを得て、ご家族様から情報を頂き、ニーズを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立支援に努めているが、経験や能力、知識の差によってケアにばらつきは出ている。しかし、その人らしさを大切にしながら取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者を中心に個別性のある介護計画を作成している。ケアプランの説明時にご家族様の意見も確認し取り入れている。	介護計画書は、詳細な記録を基に、家族、利用者の意見を取り入れ、会議を行い計画に反映させている。家族、利用者の意見をどのように引き出すかの難しさもあるが、利用者の変化を見逃さないように要望を計画に組み入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録をつけ、必要に応じて統計を取ったり、集中的に情報を集め、ケアに反映させている。期間を待たずにプランの見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の設備を利用し、出来ることの幅を広げている。医療的な支援も専門医の診察を受けられるよう協力を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーや図書館、公園などの地域資源を活用しているが、一部の方への支援となっている。地域資源の発掘や地域への関わりを増やして行く必要がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居してからも以前から利用していた医院などをご利用頂いている。ホームからも情報提供をし、利用者様にとって最善となる支援に努めている。	かかりつけ医を受診する場合は、家族が対応しているが、その都度、相互に情報提供し共有できるよう努めている。協力医は、2週間に一度の往診により利用者の体調の把握をしている。専門医への受診は必要に応じて職員が支援する体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	外傷や発熱等も早期発見に努め、看護師との連携も密に行っている。また、看護師不在でも連絡が取れる環境になっており、随時対応出来るよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書の作成や、連絡調整など行っている。また、入院された場合では早期退院出来るように受け入れ態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から終末期の話をし、最期のその時まで共に支え合うことをお伝えしている。地域の関係者とは特に話し合われていないが、運営推進会議では、グループホームにおける看取りまでの必要性などを話し合っている。	利用者、家族に対して、入居時に重度化や終末期の説明と共に意向の確認を行っている。状況に応じて話し合いを重ねて、出来る限りの支援に取り組んでいる。今期も一人、看取りを行い、家族も職員も、納得のいく最期を迎える支援が行えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	経験によって差が出ているが、研修で学ぶ機会を設けるよう努めている。定期的な勉強が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新規職員の入職時や、定期的な事業所内での防災訓練は行っているが、消火訓練や、地域の方との連携までは出来ていない。実際に災害が起きた際に冷静に動けるか不安の声はある。	近くに川があるので、水害を想定した避難訓練を行っている。地域の消防団長や自治会長などからの助言で、避難所まで避難せずに、事業所の2階へ避難する訓練を行った。今後は、隣接する地域住民への訓練参加についての声掛けなども検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いについては毎月の全体ミーティングでも話し合わせ、個別ケア、自尊心への配慮なども勉強会などで学んでいる。馴れ合いの関係になり、配慮がかけてしまわないように注意が必要である。	運営推進会議で、家族から言葉遣いに関しての意見が出され、職員会議で改善に向けた話し合いが行われた。日頃の対応への振り返りが出来たことで、親しみの中で節度を保つ難しさを考える良い機会となった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ニーズが表明できる方へは出来ているが、訴えられない方への働きかけが難しい。また、職員都合で動いてしまう場面もあり、ケアの方法や体制の見直しも必要である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合になる場面もあるが、その人中心のケアを念頭に意識して取り組んでいる。その人らしさを追求しつづけ、安心した生活を送って頂いているよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でされる方は良いが、介助が必要な方への支援が難しい。清潔保持には努めており、おしゃれとまでは行かないが、整容など身だしなみには注意して取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや嗜好に応じた対応をしている。個人での購入もして頂き、柔軟に対応している。盛りつけなどの見た目にも配慮して取り組んでいる。	食事に関しての勉強会を行い、より美味しく、満足するために、彩りなどにも配慮した食事の提供を考えている。利用者は、後片づけなど、出来る事を見つけ手伝っている。月1回、個別に、近くの商業施設のフードコートなどに外食に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭料理のため、細かな栄養管理までは行き届いていないが、健康に害を来さない程度に医師とも相談しつつ美味しいものを提供している。水分についても量を把握し、摂取の少ない方へも働きかけている。勤めてもあまり飲まれない方への支援が課題となっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は出来ていないこともあるが、入床前には口腔ケアをして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録を付け、間隔を把握し、トイレでの排泄を心がけている。その方の状態に応じておむつを併用している。	排泄チェック表を活用し時間をみて声かけを行い、トイレでの排泄を促している。夜間は、利用者の行動の把握に努め状況を把握し、トイレに誘導している。また、ポータブルトイレの使用など、利用者に合わせて支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物での排便コントロールに努めている。また、お腹のマッサージや水分摂取なども多くし、薬に頼らず出来るだけ自然な排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご希望に応じた時間に入って頂けるように努めているが、職員の都合で入って頂くこともある。しかしその際には無理強いせず、了承を得て勤めるように努めている。	利用者が希望すれば、毎日、入浴出来る環境を整えている。利用者の希望する時間などに、出来る限り対応出来るように努めるとともに、湯船に浸かれない場合は、シャワーチェアなどを利用して、清潔維持を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ起きて頂いているが、その方の状態に応じてお昼寝を取り入れたり、就寝、起床時間もその方の希望に沿えるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用をセットする薬の袋に明記し、日頃から目にするようにしている。また、薬剤師との連携を図り、安全性を高めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	総ての利用者様にはないが、利用者様によっては出来ている。表現されない方への支援が難しく課題となっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人様からの希望があれば応じられるようにしているが、訴えられない方の支援があまり上手く出来ていない。ご家族様によっては外出を積極的にされている。	毎日、散歩に出かけたり、歩けない利用者は、庭で外気浴をしている。初詣や花見、紅葉見物など恒例行事としての外出も、利用者の楽しみとなっている。個別の外出支援で、スーパーなどへ買い物に行ったり、図書館へも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理をされている方も見え、買い物の際には立替の形を取っている。欲しい物を欲しい時に購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて電話やお手紙を送れるようにしている。実際に郵便局へ手紙を出しに出かけたりもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な環境に努めているが、季節感が出ていないため、壁紙などを工夫し、季節を感じて頂けるようにしている最中。	薪ストーブに火が赤々と燃える傍のソファで、利用者がまどろむ様子が、この事業所の居心地の良さを端的に表している。食卓で談笑する人、テレビを見る人など、思い思いの過ごし方をしている。窓から見える手入れの行き届いた庭も利用者に安らぎをもたらしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外に一人になれる第三の空間がないため課題である。庭があるため気分転換に出られる方もおり、また、同じテーブルに座られる方は歌を歌ったり雑談されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使われていたもの持ってきて頂き、配置などもご自由にして頂いている。寝たきりの状態の方も誕生日のメッセージが書かれた壁紙などが見えるように貼ったり、ラジオやテレビなども使用し、生活感のある環境を整えている。	居室には、使い慣れたタンスや仏壇、テレビなどが持ち込まれている。畳風の敷物を敷き、布団で寝起きし、入居前の生活習慣を継続する利用者もいる。利用者一人一人が落ち着け、寛げる居室づくりへの配慮が伺われる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に目印や表札を付け場所を認識しやすいように工夫している。ソフト面で努力しているが、手すりや段差解消など、ハード面の改善が必要である。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400992		
法人名	有限会社アット		
事業所名	アットホームあいり		
所在地	愛知県名古屋市区西玉池町255番		
自己評価作成日	平成29年12月15日	評価結果市町村受理日	平成30年 4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kanji=true&KijyosyoCd=2370400992-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋区緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年 1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様にとって安心して過ごせる家となるよう家庭的な環境を整えております。また、ご家族様とも、共に利用者様を支える関係性を築き利用者様中心のケアに努めております。地域との関わりとして、いどばた会や歌声喫茶を開催し、ご利用者様にも参加して頂くことで地域の一人として生活して頂いております。食事は個人の嗜好に合わせられるように努めており、可能な限り好きなものを召し上がって頂いております。散歩や買い物も毎日のように出かけており、趣味に応じて図書館へ出かけたり、外食なども企画して外出できる機会を作っております。人と人との関わりを大切にし、専門職の視点と対等な関係性の構築に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一員であることを意識し、近所の方への挨拶や夏祭りなどのイベントに参加させて頂いている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	いどばた会や歌声喫茶を通じて地域の方との交流を図っている。散歩や買い物も日常的に出掛け、挨拶や関わりを持つことで交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いどばた会や歌声喫茶を通じて、地域の方へ発信したり、利用者の方と関わって頂く機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームでの状況を報告し、民生委員の方や消防団の方から情報を頂いている。また、ご家族様代表の意見を頂き、現場にも反映させている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	名古屋市との関わりは薄いですが、運営推進会議にて、いきいき支援センターの方と情報交換をし、また、コンソーシアムにもご参加して頂くこともあり、関係性作りに努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については勉強会などでも学び、玄関の施錠についても防犯目的以外の施錠はしていない。言葉による拘束についても意識して取り組まれている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて学ぶ機会を作り、日々の中でも言葉遣いに留意し、毎月の全体ミーティングにて振り返りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて外部の講師を招き学ぶ機会を設けたが、勤務の都合上、全員参加はできず、制度についてはホーム内でも特に学ぶ機会がないため、必要に応じて取り入れていく。権利擁護については意識して取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に出来ること出来ないことなどを話し、日々の中でも親戚のような関係性をコンセプトに協力関係を築いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回開催される家族会や運営推進会議などで事業報告と意見交換をしている。そこで出た意見を集約し、現場に落とし込み反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者による個人面談と月に一度の全体ミーティングにて意見を出している。また、スタッフノートも活用し意見交換をしている。スタッフミーティングも開催しており、現場のみでの話し合いも行われている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	欠員の補充がすぐに出ていないことがあるが、勤務状況の把握に努め、目標管理や日々の業務態度からの評価も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は取り組まれてるが、外部の研修は個々の時間を使って行く職員しか行っていない。能力や経験に応じて外部の研修に行く機会を設ける必要がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度のコンソーシアムにて他施設の方と交流する機会が設けられている。意見交換や情報発信もでき、刺激を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に生活シートを活用し、情報を事前に入れつつ、日々の中で積極的に働きかけ、関係性の構築に努めている。安心して暮らせるように配慮しいた関わりを意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時からご家族様のニーズの把握にも努め、入居される利用者様のみならず、ご家族様の不安や希望を取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	環境が変わることでの精神的ストレスや認知症状の悪化に留意しつつ、心身に配慮した、その人を中心とした視点で一緒に考えられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支える側と支えられる側とせず、互いに必要とされる存在であり、人と人の関わりを意識して取り組んでいる。馴れ合いになってしまわないよう専門職としての意識も留意して取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員とご家族様は、親戚のような関係性の位置でご利用者様を支えている。職員が感情移入し過ぎて、ご家族様との関係性が逆転しないよう注意が必要である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に自宅が近い方は馴染みのスーパーなどに出かけられるが、地区が違う方は馴染みの場所へは行けていない。人に関しては来訪しやすいような環境作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の際などに同じテーブルに座られる方などは比較的に関係性が構築されている。症状や年齢、育った環境によって関わり方が難しいこともあるが、無理強いせず、職員も間に入り、孤立しないような環境は作らないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もプライバシーポリシーに反しない限り、必要に応じて対応させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアを大切に、今に何を求めているのかの把握に努めている。訴えが無い方のニーズを導き出すのが難しいが、ご家族様や過去を知る職員から情報を得て、本人本位のケアに結びつけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様から得られる情報が少ないため、入居時や日々の関わりの中からヒントを得て、ご家族様から情報を頂き、ニーズを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立支援に努めているが、経験や能力、知識の差によってケアにばらつきは出ている。しかし、その人らしさを大切にしながら取り組んではいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者を中心に個別性のある介護計画を作成している。ケアプランの説明時にご家族様の意見も確認し取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録をつけ、必要に応じて統計を取ったり、集中的に情報を集め、ケアに反映させている。期間を待たずにプランの見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の設備を利用し、出来ることの幅を広げている。医療的な支援も専門医の診察を受けられるよう協力を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーや図書館、公園などの地域資源を活用しているが、一部の方への支援となっている。地域資源の発掘や地域への関わりを増やして行く必要がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居してからも以前から利用していた医院などをご利用頂いている。ホームからも情報提供をし、利用者様にとって最善となる支援に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	外傷や発熱等も早期発見に努め、看護師との連携も密に行っている。また、看護師不在でも連絡が取れる環境になっており、随時対応出来るよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書の作成や、連絡調整など行っている。また、入院された場合では早期退院出来るように受け入れ態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から終末期の話をし、最期のその時まで共に支え合うことをお伝えしている。地域の関係者とは特に話し合われていないが、運営推進会議では、グループホームにおける看取りまでの必要性などを話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	経験によって差が出ているが、研修で学ぶ機会を設けるよう努めている。定期的な勉強が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新規職員の入職時や、定期的な事業所内での防災訓練は行っているが、消火訓練や、地域の方との連携までは出来ていない。実際に災害が起きた際に冷静に動けるか不安の声はある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いについては毎月の全体ミーティングでも話し合わせ、個別ケア、自尊心への配慮なども勉強会などで学んでいる。馴れ合いの関係になり、配慮がかけてしまわないように注意が必要である。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ニーズが表明できる方へは出来ているが、訴えられない方への働きかけが難しい。また、職員都合で動いてしまう場面もあり、ケアの方法や体制の見直しも必要である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合になる場面もあるが、その人中心のケアを念頭に意識して取り組んでいる。その人らしさを追求しつづけ、安心した生活を送って頂いているよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でされる方は良いが、介助が必要な方への支援が難しい。清潔保持には努めており、おしゃれとまでは行かないが、整容など身だしなみには注意して取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや嗜好に応じた対応をしている。個人での購入もして頂き、柔軟に対応している。盛りつけなどの見た目にも配慮して取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭料理のため、細かな栄養管理までは行き届いていないが、健康に害を来さない程度に医師とも相談しつつ美味しいものを提供している。水分についても量を把握し、摂取の少ない方へも働きかけている。勤めてもあまり飲まれない方への支援が課題となっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は出来ていないこともあるが、入床前には口腔ケアをして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録を付け、間隔を把握し、トイレでの排泄を心がけている。その方の状態に応じておむつを併用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物での排便コントロールに努めている。また、お腹のマッサージや水分摂取なども多くし、薬に頼らず出来るだけ自然な排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご希望に応じた時間に入って頂けるように努めているが、職員の都合で入って頂くこともある。しかしその際には無理強いせず、了承を得て勤めるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ起きて頂いているが、その方の状態に応じてお昼寝を取り入れたり、就寝、起床時間もその方の希望に沿えるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用をセットする薬の袋に明記し、日頃から目にするようにしている。また、薬剤師との連携を図り、安全性を高めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	総ての利用者様にはではないが、利用者様によっては出来ている。表現されない方への支援が難しく課題となっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人様からの希望があれば応じられるようにしているが、訴えられない方の支援があまり上手く出来ていない。ご家族様によっては外出を積極的にされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理をされている方も見え、買い物の際には立替の形を取っている。欲しい物を欲しい時に購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて電話やお手紙を送れるようにしている。実際に郵便局へ手紙を出しに出かけたりもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な環境に努めているが、季節感が出ていないため、壁紙などを工夫し、季節を感じて頂けるようにしている最中。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外に一人になれる第三の空間がないため課題である。庭があるため気分転換に出られる方もおり、また、同じテーブルに座られる方は歌を歌ったり雑談されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使われていたもの持ってきて頂き、配置などもご自由にして頂いている。寝たきりの状態の方も誕生日のメッセージが書かれた壁紙などが見えるように貼ったり、ラジオやテレビなども使用し、生活感のある環境を整えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に目印や表札を付け場所を認識しやすいように工夫している。ソフト面で努力しているが、手すりや段差解消など、ハード面の改善が必要である。		